

## マイケルが希求した美しい地球と世界の平和

エリザベステラーによって King of Pop と称されたマイケル・ジャクソンが6月25日に急逝して以来早2ヶ月余りが過ぎようとしているが、いまだ世界の各地で追悼のストリート・パフォーマンスなどが行われている。シカゴ、モントリオール、ストックホルム、ロンドン、リバプール、パリ、香港、台北など You Tube で世界各地のファンの熱狂的な様子が見られる。これだけ、世界各地に影響を与えたアーティストは過去に例が無く、おそらくビートルズ以上だろう。

今月8月29日には、その生誕を記念して各地でイベントなども計画されているという。また、9月下旬には、双頭の鷲に象徴されるハプスブルグ家の栄華が偲ばれるウィーンのシェーンブルン宮殿において、世界的に有名なアーティストの参加による追悼コンサートが行われ、そのチケット売り上げ収入の多くは慈善団体に寄付されるとのことである。ウィーンはご存じ音楽の都であり、マイケルも公演などで何度か訪れお気に入りの街だったとのことである。都市の緑被率が世界で最も高いといわれ、美しく気品に満ちた街である。

マイケルは史上最も成功したエンターティナーであり、シンガーとしてダンサーとしてそのクォリティーの高さは他の追隨を許さないものがある。もちろん作詞作曲家として名曲もいくつも残している。

世界中のファンを熱狂させた Bad、Dangerous、History などのワールド・ツアーから10～20年近くの時が流れたが、今でもそのライブ公演のDVD等を見て目頭が熱くなるのは私だけではないと思う。

成功の陰には、カリスマ性の保持やデマゴグとの戦いなど凡人にはとうてい計り知れない精神的肉体的なプレッシャーが常に存在していたという。

パンチと切れのあるボーカルを聴かせるアップチューンなナンバーが最大の魅力であると同時に、対照的に繊細なハイトーンの美声で歌い上げるバラードにも心打つものがある。

貧困、戦争、地球環境といった問題も扱い、広く平和を訴える曲も多い。「Man in the Mirror」「Heal The World」「Earth Song」などがある。また、誰もがどこかで耳にするアフリカ飢餓救済のためのキャンペーンソング「We are the world」は、参加した豪華なアーティストの顔ぶれだけでなく、その名曲ゆえに今でも歌われ続けている。

「Man in the Mirror」は、世界を変えるにはまず自身からと・・・、地球環境の保全など何かを変えなければならないと感じている人々にぜひ聴いて欲しい唄でもある。

「Earth Song」は世界の飢餓や自然環境の破壊をストップするために、人類の歩みを振り返り、また何をなすべきかを我々に訴えかけてくる。

「Heal The World」は、メロディーといい歌声といいテンダーで美しい曲である。

この曲を歌っているときのマイケルの表情は、とてもナチュラルで澄んだ瞳と笑顔が眩しいくらいだ。その表情を見る度に、彼が本当に訴えたかったことは、地球環境の保全と世界の平和だったのだと思う。

2009. 8. 29

環境カウンセラー 平澤和人